

教 育 研 究 業 績 書				
平成28年8月30日				
氏名 上村 健二 印				
研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド		
西洋古典文学		ローマ、ウェルギリウス、アエネイス、翻訳		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項	年月日	概 要		
1 教育方法の実践例 ①英語の能力別クラス編成 ②「ステップアップ講座」の編成・実施	1998年9月 2013年3月	甲子園大学人間文化学部において、英語のクラスを学科別から能力別（プレースメントテストによる）に再編成。現在の心理学部・栄養学部フードデザイン学科でも修正を加えて実施している。 甲子園大学総合教育研究機構（2015年4月以降は共通教育推進センター）において、正規授業以外の学習をサポートする「ステップアップ講座」の運営を担当。英検対策講座等を実施。		
2 作成した教科書、教材 ①『はじめて学ぶラテン文学史』（共著）	2008年10月	古代ローマ文学史の入門書。章立てが時代別でなくジャンル別であること、および主要作品の引用（原文＋訳）があることを特徴とする。第2章「喜劇」を担当。後世への影響を扱ったコラムを付加。参考書・教科書としても使用されている。〔「著書」欄に再掲〕		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ①大学院設置審M合 ②内部審査Mマル合 ③学生による授業評価	2001年2月 2005年2月 2016年7月	甲子園大学人間文化学研究科設置申請における文部省大学設置審議会教員組織審査でM合認定。 甲子園大学人間文化学研究科大学院授業担当資格内部審査委員会でMマル合認定。 例年概ね良好な評価を得ている。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ①公開講座	2013～2014年	甲子園大学宝塚市民公開講座で講師を担当。		
5 その他 ①学校法人北白川学園評議員	2006年4月 (現在に至る)	北白川学園（京都市左京区）の学校運営・教育活動等に関して評議会に参画している。		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項	年月日	概 要		
1 資格、免許				
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 〔再掲〕『はじめて学ぶラテン文学史』 :	共著	2008年10月	ミネルヴァ書房	古代ローマ文学史の入門書。章立てが時代別でなくジャンル別であること、および主要作品の引用（原文＋があることを特徴とする。第2章を担当。後世への影響を扱ったコラムを付加。
(学術論文) 1 ウェルギリウス『アエネイス』-maius opus の解釈をめぐって（査読付）	単著	1989年9月	西洋古典論集6、pp. 53-75	英雄叙事詩『アエネイス』の後半が「より大なる仕事」と呼ばれている理由を論じたもの。即ち、後半では「イタリア人の偉大さ」という要素が加わることにより、より重要なテーマを扱うことになる。

2 『アエネイス』における ニススとエウリュアルス- dolos an uirtus をめぐっ て (査読付) -	単著	1990年12月	西洋古典論集8、 pp. 43-54	『アエネイス』第9巻のエピソードに「策略か 武勇か」というテーマがあることを指摘したも の。即ち、誉れは策略でなく武勇により求める べきだという詩人の思想が具現されている。
3 パラダイグマとしての ヘルクレスとオレステス- Aeneis第6・8巻とOdysseia 第1-4・11巻の対応 (査読付) -	単著	1992年3月	西洋古典学研究40、 pp. 78-87	『アエネイス』におけるヘルクレスが『デュッ セイア』におけるオレステスと対応しているこ とを指摘し、第8巻のカクスのエピソードの解釈 に援用したもの。即ち、主人公アエネアスに とってヘルクレスは (策略でなく) 武勇による 復讐者としての範例である。
4 プラウトゥス Trinumus における道徳的テーマについ て-喜劇的效果を上げる fides と amicitia- (査読付)	単著	1995年3月	西洋古典論集12 pp. 15-28	プラウトゥスの喜劇『三文銭』では伝統的美徳 (特に信義と友情) が盛んに賛美されるが、実 はこれらが喜劇的效果を上げるためにも利用さ れていることを指摘したもの。
5 テレンティウス『義母』 における「知るべきでない 人々」	単著	1999年3月	甲子園大学紀要、 人間文化学部編2 (c) pp. 17-29	テレンティウスの喜劇『義母』では、一部の登 場人物が事の真相を知らぬままに終わり、彼ら が「知るべきでない人々」と呼ばれている理由 を論じたもの。
6 トゥルヌスと dolus - 『アエネイス』第11・ 12巻-	単著	2001年3月	甲子園大学紀要 人間文化学部編4 (c) pp. 23-32	『アエネイス』後半におけるイタリア人の英雄 トゥルヌスと「策略か武勇か」のモチーフとの 関わりを論じたもの。即ち、トゥルヌスには、 本人の言明とは裏腹に、策略を利用する面があ る。
7 『アエネイス』第7巻にお ける「内乱」の勃発 (査読付)	単著	2008年3月	西洋古典論集21、 pp. 37-52	ウェルギリウスの叙事詩『アエネイス』後半の 戦いを引き起こす女神アレクトの役割を新た な観点から論じたもの。
8 ローマ喜劇における sed' の訳語について	単著	2011年3月	甲子園大学紀要第38号 (2011)、pp. 31-35	ラテン語の接続詞' sed' は英語の' but' と同 様に「それより」などと訳せる場合があるこ とを指摘し、ローマ喜劇の幾つかの場面でまさ にそう翻訳すべきであることを示したもの。
9 学生の自主的な学びをサ ポートするひとつの企画の 試みー「甲子園大学ノート 大賞」	共著	2013年3月	甲子園大学紀要第40号 (2013)、pp. 23-31	学生の自主的な学びを支援する企画である「甲 子園大学ノート大賞」の誕生と現状を紹介し、 今後の課題について考察したもの。(全般的な 執筆方針とデータ分析を共同で行い、分担執筆 は担当していない。) 西川真理子・増田将伸・ <u>上村健二</u> ・前馬優策・梶木克則著
10 学生の主体的な学びをサ ポートする「ステップアッ プ講座」	共著	2014年3月	甲子園大学紀要第41号 (2014)、pp. 29-40	学生の主体的な学びを支援する「ステップアッ プ講座」の誕生から現状までを紹介し、今後の 課題について考察したもの。(全般的な執筆方 針とデータ分析を共同で行い、分担執筆は担当 していない。) 西川真理子・増田将伸・ <u>上村健 二</u> ・前馬優策・梶木克則著
11 学生支援としての「ス テップアップ講座」の効果 の検証ー受講者アンケート 自由記述の分析からー	共著	2015年3月	甲子園大学紀要第42号 (2015)、pp. 37-45	正規授業外の学習支援として実施されている 「ステップアップ講座」の受講者アンケート (自由記述) を分析し、その有用性を指摘する とともに今後の正規外教育を展望。(全般的な 執筆方針とデータ分析を共同で行い、分担執筆 は担当していない。) 西川真理子・増田将伸・ <u>上村健二</u> ・岡邑衛・滝省治著
12 大学生と大学教職員が考 える「よいノート」の要 件ー「甲子園大学ノート大 賞」でのコメントを基にー (査読付)	共著	2015年3月	大学教育研究ジャーナル 第12号 (2015) pp. 62-70	甲子園大学の授業外学習支援の一環として実施 されている「ノート大賞」での教職員および学 生のコメンタリーを分析し、ノートに対する考 え方の立場による違い等を指摘し、今後の学 習の質の向上させる方策を展望。(全般的な 執筆方針とデータ分析を共同で行い、分担 執筆は担当していない。) 増田将伸・西川 真理子・ <u>上村健二</u> ・岡邑衛著
(その他) [翻訳]				
1 ネボス『英雄伝』	共著	1995年3月	国文社	古代ギリシア・ローマの著名人の (ラテン語に よる) 伝記集。本邦初訳。主に前半を担当 (pp. 9-78, 182-184, 205-218)。山下太郎・ <u>上村健 二</u> 訳
2 キケロー 『クルエンティウス弁護』	単著	2001年3月	岩波書店	毒殺事件を扱ったキケローの法廷弁論。刑事訴 訟としては代表的なものの一つ。本邦初訳。 『キケロー選集1』所収 (pp. 89-209, 403- 409)。

3 キケロー 『デーイオタルス弁護』	単著	2001年3月	岩波書店	キケローがカエサルの面前で行った弁論の一つ。本邦初訳。『キケロー選集1』所収 (pp. 365-391, 437-441)
4 プラウトゥス『三文銭』	単著	2002年4月	京都大学学術出版会	プラウトゥスの喜劇の一つ。伝統的美徳が賛美されるとともに、道徳論のパロディー的な面もある。『ローマ喜劇集4』所収 (pp. 391-493、625-631)
5 テレンティウス『義母』	単著	2002年8月	京都大学学術出版会	テレンティウスの喜劇の一つ。笑劇的な面の少ないまじめな作品で、作者の意欲的な試みが含まれる。『ローマ喜劇集5』所収 (pp. 477-561、711-717)
6 クルティウス・ルフス 『アレクサンドロス大王伝』	共著	2003年9月	京都大学学術出版会	ラテン語で書かれたアレクサンドロス大王の伝記。本邦初訳。後半 (pp. 244-469) を担当。谷栄一郎・上村健二訳

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。